

*** 国立天文台及び天文学に関係する事項が登場する切手の収集**

アーカイブ室新聞 305号に「国立天文台（東京天文台、緯度観測所）が登場する記念切手などの収集」（2010年3月31日発行）という記事を書いた。この記事を読んだ国立天文台のお近くにお住まいの秋山さんという方が電話をかけて来られて、「切手の収集が趣味だったこともあって天文台関係の切手を持っているのでより有効な所で役立てていただくために提供したい」と話された。提供くださるのであればありがたく頂きたいと申上げると、ほんの10分と過ぎないうちに写真1のような切手をもって天文台に来られた。

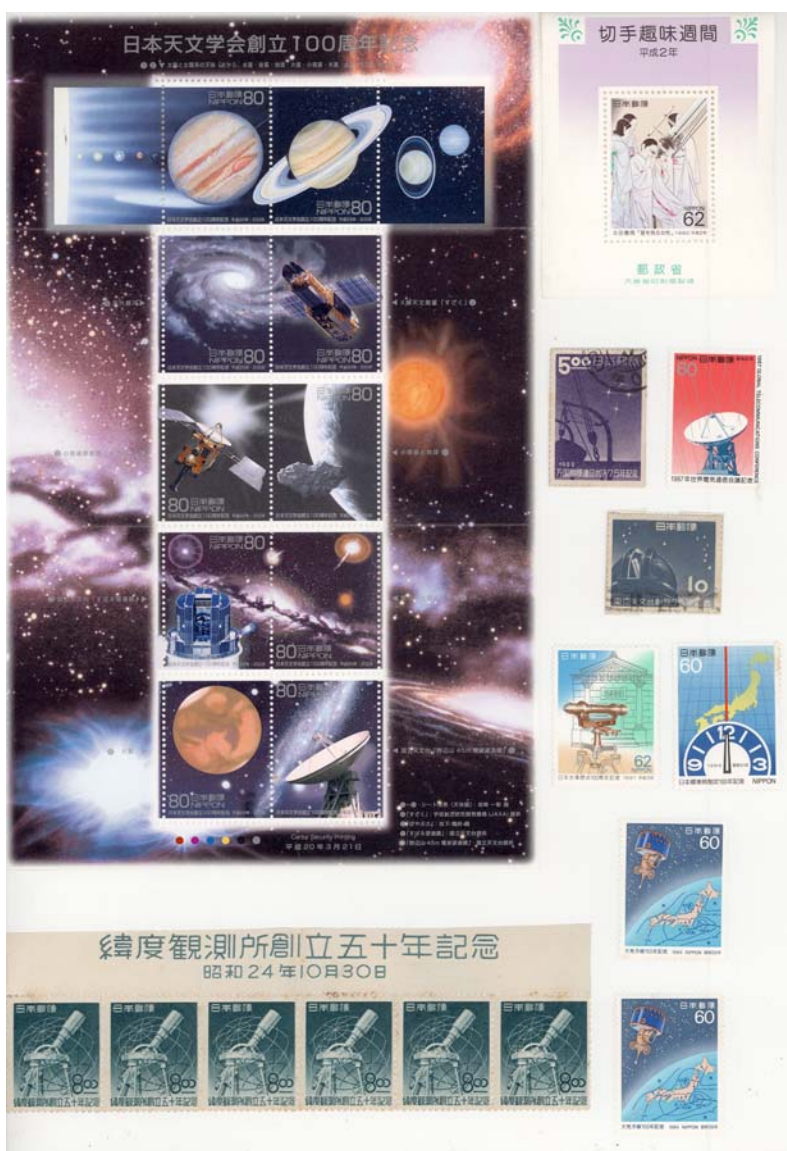


写真1 寄贈いただいた関係の切手

かなり古いものから、2008年の日本天文学会100年記念の記念切手シートまでである。切手収集が趣味であったが、最近興味が薄れたこともあり、国立天文台アーカイブ室で収集するというのであれば無償で提供くださるというのでありがたく頂戴した。特に緯度観測所開所50年記念の浮遊天頂儀の6枚はシートの上段で「緯度観測所創立50年記念昭和24年10月30日」と入っている(写真2)。

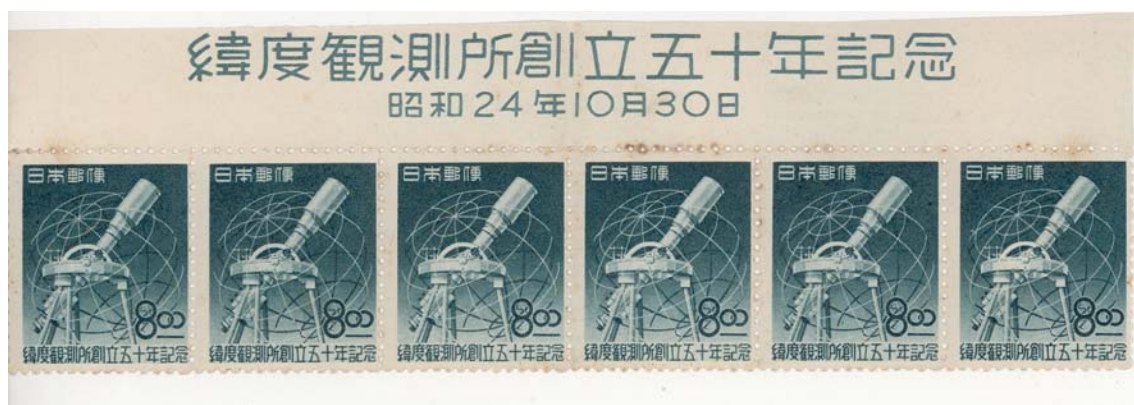


写真2 緯度観測所創立50年記念切手

東京天文台創立75年記念切手が写真3、日本標準時制定100年記念切手が写真4である。東京天文台の「国立天文台」の性格を持っていた事業の一つが標準時の決定であることから、この日本標準時制定100年記念切手は東京天文台に深く関係する切手である。



写真3 東京天文台創立75年記念



写真4 日本標準時制定100年記念

日本天文学会創立100年記念事業が持たれたのは、2008年であるからつい最近のことではあるが、この中に国立天文台がハワイに建設した大型光学赤外線望遠鏡「すばる」、東京天文台が長野県野辺山に建設した45mミリ波電波望遠鏡が入っている。「すばる」の完成記念式典で元内閣総理大臣であった海部俊樹氏は「すばる」完成記念切手を発行させると約束されたが、国外に建設されたことを理由に元総理大臣の意向をしても実現しなかった「すばる」がデザインされた記念切手が日本天文学会創立100年記念の形で実現した。

写真5が「すばる」がデザインされたものであり、写真6が野辺山宇宙電波観測所の45mミリ波電波望遠鏡がデザインされたものである。



写真5 「すばる」がデザインされた日本天文学会創立100年記念切手



写真6 45m宇宙電波望遠鏡がデザインされた日本天文学会創立100年記念切手

この日本天文学会創立100年記念切手には「木星、土星を中心に惑星がデザインされたもの」（写真7）、「天体観測人工衛星と渦巻星雲がデザインされたもの」（写真8）、「小惑星と小惑星探査機がデザインされたもの」（写真9）がある。



写真7 8惑星がデザインされた日本天文学会創立100年記念切手

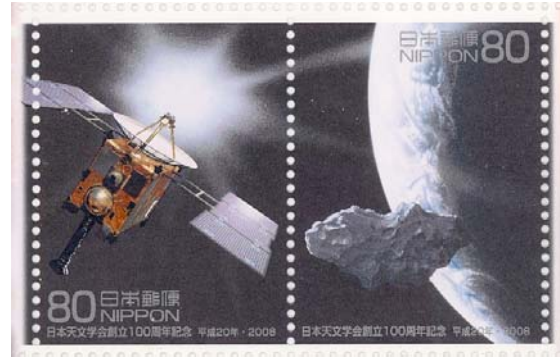


写真 8、写真 9 人工衛星、宇宙探査機などが天体を背景にデザインされた記念切手
 その他に、直接には国立天文台に関係はしないが、経緯儀、電波望遠鏡、星空がデザインされた記念切手として、1959 年発行の「万国郵便連合加入 75 年記念切手」（写真 10）、1984 年発行の「天気予報 100 年記念切手」（写真 11）、1987 年発行の「世界電気通信会議記念切手」（写真 12）、1990 年発行の切手趣味週間の「太田聴雨「星を見る女性」」（写真 14）、1991 年発行の「日本水準点 100 年記念切手」（写真 13）、



写真 10



写真 11



写真 12



写真 13

切手趣味週間の「星を見る女性」は特に美しいので大きく紹介したい。



写真 14 太田聰雨の「星を見る女性」をデザインした切手

写真 14 の「星を見る女性」が覗いている天体望遠鏡は、国立科学博物館の望遠鏡とのことであり、国立天文台の望遠鏡ではないが、この望遠鏡は国立天文台の第一赤道儀室のツアイス製の 20cm 屈折望遠鏡をモデルとして製作された国産望遠鏡と言われている。

このように、アーカイブ室新聞がインターネット上に公開され、読者が広がるにつれていろいろな情報を寄せてくださる方が出てきたことは非常にありがたいと思っている。